

注意点1 右手&左手

ルート音を鳴らす指は 全体の流れを理解してから決めよう

コード・タッピングやメロディック・タッピングでのルート音は、左手と右手のどちらでも弾くことがある。ルート音はコードの土台になる音なので、基本的にフレーズの中で最も低い音になることが多い(分数コードという例外もある)。では、実際にコード・タッピングを弾く時には、ルート音の配置はどのように決めればよいのか?

最もオーソドックスな方法は、4弦に配置すること。ルート音を4弦で鳴らせば、残りの3本弦を使ってコード・トーンを鳴らすことがで

きる。この時に身体の構造上、4弦に配置したルート音は、10フレット以上なら右手、10フレット以下なら左手で押さえるのが自然だ。ただし、ルート音がE音の時には注意が必要になる。指板を叩きながら音を繋げるコード・タッピングでは、開放弦を使用することは少ない。ということは、E音として使用するポジションは、4弦開放ではなく、4弦12フレット(右手)か3弦7フレット(左手)になる。つまりコード進行上にE音をルートとするコードが登場した場合、前後の流れから、どちらのポジション

を使うべきかを考える必要があるのだ。

例えば、図1のF#m→E→C#m→Dというコード進行で考えてみよう。ルート音を押さえる指は、1&2小節目は右手だが、3&4小節目は左手に切り替えている。つまり、この場合では、Eコードのルート音は右手で押さえた方がよいのだ。このように**全体の流れを理解【註】**した上で、タッピング・ポジションを決めるように心掛けてみてほしい。

図1 コード・タッピングにおける低音弦のルート音の押さえ方

低音弦のルート音を右手で鳴らす。

低音弦のルート音を左手で鳴らす。

注意点2 右手&左手

低音弦をしっかり叩いて コード感を生み出すべし!

メイン・フレーズは、1&2小節目がコード・タッピング、3&4小節目がメロディック・タッピングになっている。1小節目は2&1弦のポジションが一定なので、それほど難しくないだろう(写真①&②)。2小節目は、後半の4&3弦のポジションがそれまでのパワー・コード・フォームとは異なり、3弦が1フレット分上がるので(写真③&④)、左手中指をしっかりストレッチさせることが大切だ。3小節目では、左手で3~1弦を押さえて3和音を作るが、コード音が小さくならないように、弦をしっかり叩こう。4小節目の右手人差指のタッピング&スライドは、音詰まりに注意しながら、流れるようなプレイを目指してほしい。

① 1小節目1&2拍目。3&4弦をしっかり叩こう。

② 1小節目3&4拍目では、3&4弦のみ移動する。

③ 2小節目1&2拍目。1&2弦のポジションに注意!

④ 2小節目3&4拍目では、左手中指をしっかり伸ばそう。

【全体の流れを理解】 超絶の道を極めるためには、手の無駄な動きを減らすことが必要。ただ闇闇に音を鳴らしているようではダメだ。常にフレーズ全体の流れを理解してから、ポジションを探るように心掛けよ!